



学校だより

令和4年11月17日
市川市立第六中学校
校長 渋谷 敬二

【学校生活の様子から】

・今週は期末試験が行われました。テスト返却は来週からになりますが、点数だけにとらわれるのではなく、これまでの学習を振り返り、また新たな目標を定め、再出発の起点としてほしいと思います。目標を立ててもそのとおりにやり切るとはなかなか難しいものです。「いつも同じ反省ばかりしている」と落ち込むことはありません。努力に満点はないものです。同じ反省の中からも次に向けた意欲を持つとすることが大切です。努力の成果は目に見えるものばかりではありません。今回の努力は次回の実績につながっているかもしれません。

・このところ、体育の授業では持久走が行われています。長い距離を走るのが苦手な人にとっては辛い時間かもしれませんね。六中の授業では仲間とペアを組んで、走る人とサポーターになる人に分かれて行っています。サポーターはペース配分が適切かを教えてあげたりしています。そして、制限時間が迫ってくると応援の声が一段と大きくなってきます。「がんばれー」「まだいけるぞー」大勢の励ます声が校舎内まで聞こえてきます。聞いていてとても気持ちがよくなります。仲間の声に励まされ、目標を達成できることもあるでしょうね。持久走も自分との戦いです。毎回記録更新とはいかなくても頑張っていると、何回かに一回、思いの外好記録が出たりすることもあると思います。

・各部の新人戦が大半終わりました(卓球部の県大会個人戦は12月です)。全ては見切れませんでした。多くの試合を見学して回りました。勝負ですから勝ち負けはありますが、一生懸命プレーしている姿、仲間を助けるために頑張っている姿、また、我が子のプレーに歓声をあげている保護者の姿、それぞれにいいものですね。県で優勝した部はなく、すべての部が負けを経験したことになります。この負けをやはり次の練習のパワーにできるかどうか、それを持続させられるかどうか。そこが大きなポイントだと思います。

勉強も運動も共通するところがあるような気がしますね。

【生徒集会について】

11月16日、テストの後に生徒集会が開かれました。生徒会本部役員も旧役員が引退し、新メンバーが中心となって計画、進行を務めました。慣れない中での初仕事でしたが、司会者も臨機応変に対応し、代表者の挨拶も堂々としていました。六中生の代表としてこれから1年間しっかり取り組んでほしいと思います。集会の前には多くの表彰も行われました。六中生の頑張りを裏面に紹介します。

【保護者・地域の皆様のお力で】

・11月12日(土)、20数名の皆様の協力のおかげで、校庭の側溝掃除が行われました。震災後の放射能の影響、コロナ禍で地域の方が学校へ入れないなどの影響もあり、何年もの間ずっと行われていませんでした。今回は「子どもたちの活動の手助けになれば」との思いから実施してくださいました。校庭のごく一部だけの作業となりましたが、それでも土嚢袋116枚分の土が掘り出されました。また3学期にも行おうという声も上がっており、大変ありがたく思っています。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。

・鬼高自治会より、消毒液2ケースが寄贈されました。コロナ感染が再増加しており、感染防止対策はまだまだ緩めることはできません。大切に活用させていただきます。



